

第1回 IMA 小委員会議事録

開催日時：2021年5月29日（土）9：05-9：55

開催形態：オンライン会議（Zoom）

参加者：大谷栄治・阿依アヒマディ・井上 徹・宇都宮 聡・榎並正樹・大藤弘明・
鍵 裕之・小暮敏博・佐藤 努・土屋 旬・富岡尚敬・坂野靖行・宮脇律郎・
門馬綱一・塚本尚義・西山忠男

1. 小委員会役員の選出について

西山忠男委員長・宮脇律郎副委員長・大藤弘明幹事を選出した。
各役員から挨拶があった。

2. 議事要旨の委員長一任について（西山）

学術会議の規定により、議事要旨を委員長一任とすることを決定した。

3. IMA business meeting 報告（西山・大藤・大谷）

・2021年1月12日 IMA business meeting on line（ZOOM）に小委員会メンバー4名（大谷栄治・大藤弘明・宮脇律郎・西山忠男）が参加。新執行部を決める投票に日本から4票を入れる。なお、この新執行部の councilor の一人に大藤弘明委員が候補者となっている。

・2021年1月14日 IMA business meeting on line に再び上記4名が参加。新執行部選挙結果を確認。大藤弘明委員が councilor に就任。

・2021年1月14日の現地時間15～16時（日本時間23～24時）に3rd Council Meeting が行われ、大藤委員が councilor としては参加した。まず、New President に就任した Anhuai Lu 氏より挨拶があり、IMA2022 Lyon へ向けた抱負と IMA2026 Nanjing への準備へ向けての説明があった。また、新たな3つの Commission（Nanomineralogy, Biomineralogy, Big-Data Mineralogy）を立ち上げたいという要望が出ているということで、まずは Working Group をそれぞれ立ち上げるところから始める必要があるが、どう組織化を進めるかについて意見が交わされた。大藤委員から、councilor メンバーとして、IMA2022 Lyon においてスペシャルセッションを企画し、コンビナーを中心に提案、組織化を進めるのが良いのではないかと提案を行い、賛成を得た。

Razvan Caracas 氏より IMA2022 の準備状況説明があり、プログラムに関しては、Plenary Lecture を1日の最初と最後（ポスターセッションの後）に連日組んでいるとのこと（できるだけ人を呼びこむ（会場に残す）ため）。また、リヨン近郊での巡検を予定しており、一つの目玉としたいとのこと。なお、IMA の時期執行部体制の投票を含む一連の Council meeting や Business meeting を会期中のどこの時間帯で行うかで議論があり、スケジュール

ルについては今後も ZOOM ベースで継続的に審議することとなった。

・2021年3月18日付けの IMA 執行部宛てのメール連絡において、IMA2026 のホスト（開催地）について、候補の一つであった韓国が立候補を取り下げる旨の報告があった。コロナ禍により審議が遅れていた韓国国内の学会において対応を検討したが、（コロナ禍も影響し）現在の学会状況ではホストを務めるのは困難だと判断したとのこと。これにより、IMA2026 の現実的なホストとして、中国（開催予定地 Nanjing）だけが残っている現状となった。

・延期されていた EMC2020（Crocw, Poland）が online で 29 August-2 September, 2021 に開催される（大谷）。積極的な参加が呼びかけられた。

4. 各コミッション、ワーキンググループ報告

・Commission on Museums (CM) 日本代表委員の坂野靖行委員より、1年延期となったブルガリアのソフィアで開催予定の第9回 M&M 国際会議は8月24-26日にハイブリッド方式での開催に変更となったこと、及びCMの business meeting（ウェブ会議の見込み）には坂野委員が出席する予定であることが報告された。

5. 国際集会代表派遣決定報告（西山・宮脇）

・上記 M&M に宮脇律郎委員が代表派遣されることが学術会議によって決定された旨、報告があった。ただし、今回はウェブ参加であり、旅費は出ず、報告義務だけがある。

6. 学術会議 学術フォーラム「地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献」報告（大谷）

大谷栄治委員より、表記学術フォーラムにおいて、IMA 国際組織の紹介と IMA 国内小委員会の活動が報告された旨、パワーポイントを用いて報告がなされた。なお、この学術フォーラムの内容は「学術の動向」に印刷される予定。

7. 日本学術会議，地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会 学術試料共有小委員会（第25期・第1回）

学術会議のマスタープラン 2021 に地質学会と鉱物科学会等が共同提案して採択された第24期大型研究「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」の内容を含む、学術試料の保管・共有に関する小委員会の活動が開始された。

なお、学術会議地球惑星科学委員会による第25期大型研究ヒアリングが6月26日に実施されることが報告された。

8. 学術会議の動向（任命拒否問題など）（西山・大谷）

学術会議の設置形態が政府との間で議論になっている現状ならびに任命拒否問題が解決していない現状について説明がなされた。また会員・連携会員の選考に関しては、今後鉱物科学関係の会員・連携会員を増やさなければ、本小委員会の存続が危うくなる旨、報告がなされた。

9. その他

大谷栄治委員より国際鉱物学年（Years of Mineralogy）2022 の紹介がなされた。